

1 調査の概況

調査の実施日	令和5年4月18日
調査対象学年	全国の6年生
調査内容	(1) 教科に関する調査（国語，算数） (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査 学習意欲・学習方法・学習環境・生活の諸側面等に関する調査

2 教科に関する調査の結果と考察

平均正答率(%)	国語	算数
本校	71	64
広島県	69	64
全国	67.2	62.5



<国語>

- 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問いでは全員が正答している。
- 話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問いの正答率も高い。
- △ 記述式解答の正答率が低い。その理由として、①解答する際の条件を満たせていないこと、②情報量が多いと問題の意図を整理できていないことが挙げられる。

<算数>

- 計算問題などの基礎的な問いの正答率が高い。
- 台形や正方形の意味や性質を問う問いでの正答率も高い。
- △ 図・イメージ・式の中の数字が一致しておらず曖昧な理解のままになっている。
- △ 「量」と「百分率」の意味を混同している。

3 生活習慣等に関する質問紙調査の結果から

- 自己肯定感を問う問いに対し全員が肯定的な回答をしている。
- 「人が困っているときは進んで助けていますか」「友達関係に満足していますか」という問いに全員が肯定的な回答をしている。周りの人と良好な関係を築いている姿が伺える。
- △ 「自分と違う意見について考えるのは楽しいか」という問いにおいて4割の児童が否定的な回答をしている。
- △ 「昼休みや放課後、学校が休みの日に図書室や地域の図書館にいきますか」という問いに8割の児童が「ほとんど行かない」と回答をしている。

4 具体的な取り組み

「書く」指導の充実

- ①ふりかえり等を書く際に、「この言葉を入れて書こう」「〇行で書こう」など、条件を指定して書くことに慣れさせていく。
- ②どのように書けたら「A」なのか、教師が事前に考えておく。
- ③推敲作業に時間を取れるように、単元を見通して計画的に授業を進める。

「読む」指導の充実

- ①文章の読み取りを丁寧に行う。国語科では表現効果を考えさせながら読ませたり、算数科や理科では文章問題の場面を絵や図でイメージすることを習慣づけたりしていく。
- ②印をつけながら読むなど、文章量が多い場合の「読み方」について指導する。
- ③休憩時間に児童が読書を楽しめるように時間を確保する。また、家庭学習でも読書を取り入れる。

算数科において

○ドリル形式の問いだけでなく計算の意味理解ができるようにするために、授業において過程を理解しているか児童の言葉で説明させる時間を多くとる。

